Monthly くらしHOW
2011年4月
東日本大震災特別版
リビングくらしHOW研究所
http://www.kurashihow.co.jp

■震災直後の首都圏「品切れ」現象、そのとき消費者の気持ちは？

甚大な被害をもたらした東日本大震災。直接に地震や津波の被害がなかった地域でも、原発事故、ガソリン不足、生産工場や生産地の被災、さらには社会不安などにより「品切れ」問題が起きました。首都圏の消費者は、この問題をどう受け止めたのでしょうか。「リビングくらしＨＯＷ研究所」では震災の翌週より緊急アンケートを実施。その速報をお届けします。

＜調査概要＞ 期間　：2011年3月18日～27日
回答者：ウェブサイト「えるこみ」ユーザー834人（女性86.5%、既婚80.2%）
そのうち首都圏在住者462人のデータを集計
※本調査は、通常の回答者謝礼はなし、相当額を被災地の義援金とするかたちで実施しました

※グラフは小数点以下第2位を四捨五入のため合計100%にならないものもあります

■「品切れ」は激しかったが、生活に「影響なし」だった人も５割 多くの消費者は冷静に行動していた

大震災後、スーパーなどで「品切れがあった」と、ほぼ全員が回答。ただし「生活に影響があったか？」という質問に、「とてもあった」「少しあった」という回答は、合わせて半数に留まった。

「品切れの棚を見ると、今後買えないかもと不安になった」人は約1／3いたが、「どうしても買いたい品を探し回った」人は16.8%。買占めが騒がれたが、多くの消費者は冷静に対応していたようだ。

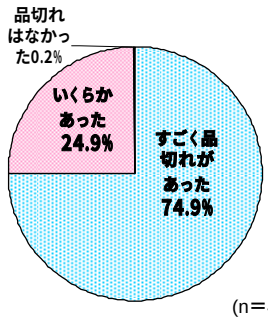
それほど切羽詰まっていなかったためか、「購入品を分け合う」「買い物情報の交換」などの行動をした人は、非常に少なかった。

ただしフリーアンサーを見ると「パン・ヨーグルト・バナナはいつもの朝食としていたので、生活リズムに影響があった」(50歳) など、いつもの生活を維持したい、できなくて困るというストレスは、多くが感じていた。買占めをしたのは一部に過ぎなくても、多数が「いつも買うものは買いたい」と思ったことで、品薄状態が加速したのかもしれない。

品切れ問題の責任は、約6割が「消費者自身にある」と考えている。「日曜にちょっと牛乳をと思い買いに行ったら周りの雰囲気に圧倒され、その時必要ではなかったものを買ってしまった」(37歳) など、雰囲気に煽られたという反省も。

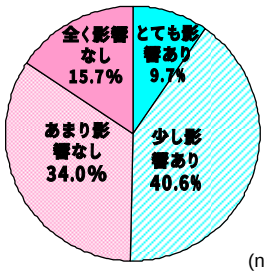
また「メディアで取り上げるほどみんながあせって買いだめをして、逆効果な気がした」(30歳) など、メディアの責任を問う人も4割いた。

グラフ①
よく行く店で品切れがあったか？



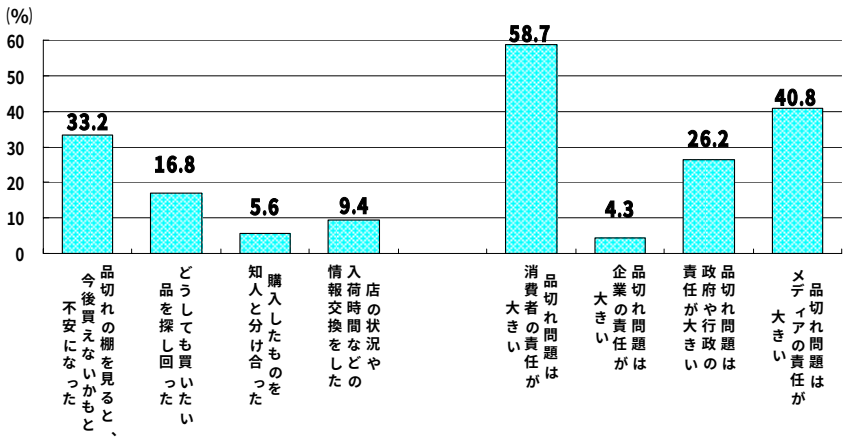
(n＝454)

グラフ②
品切れにより生活に影響があったか？



(n＝453)

グラフ③　あなたの行動、考えに当てはまる？　※複数回答　(n＝446)



■首都圏で「買えなかった」商品トップ２は、懐中電灯＆電池の「停電セット」

飲料水が買えなかったのは約4割

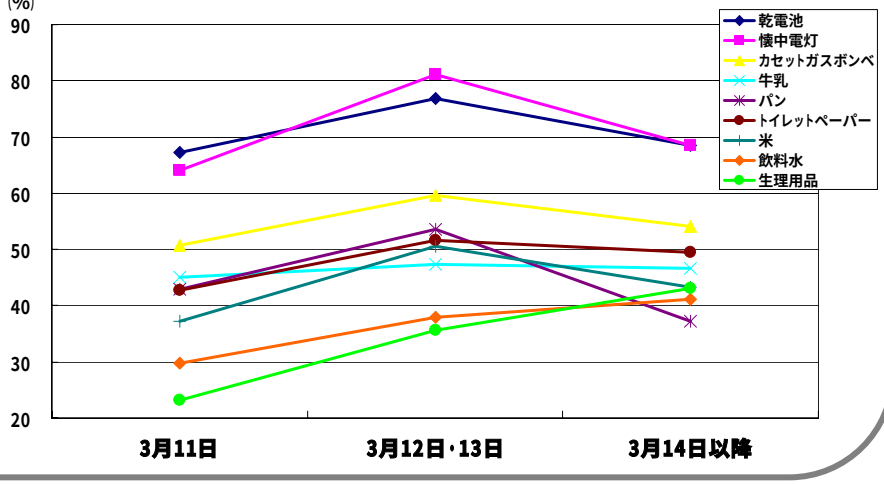
震災当日、直後の週末、そして週明け以降と、「買おうと思ったのに買えなかった」首都圏での割合が、右のグラフ。

買えなかったモノのトップ2は、乾電池、懐中電灯といった停電対策品で、ピーク時には8割前後が入手できなかった。

品薄だった牛乳、パン、トイレットペーパー、米などは、直後の週末には半数程度の人が品切れで購入できなかった。しかしその後、パンや米などは「買えない」率が下がっていった。

当初は買えたが、だんだん買えなくなったのが、「飲料水」「生理用品」。「飲料水」は、買えない人は4割程度と、半数以上は入手できた様子だ。

「買おうと思った」回答者のうち、品切れで買えなかった回答者の割合（首都圏）



発行：株式会社リビングくらしHOW研究所
Tel　03-5216-9420
2011.04.1

「リビング千葉」編集長の新浦安・断水ダイアリー
液状化＆長期断水、そのとき…地域の消費現場レポート

3月11日、甚大な被害を受けた東北・北関東から遠く離れているはずの東京湾岸部でも、「液状化」による大きな被害がありました。新浦安に住む「リビング千葉」編集長・西脇は、震災当日から続く被災・断水生活を記録。その中から、ショッピングやサービスの現場のリアルな状況が伝わる部分を、休日の日記を中心に抜粋しました。

人の背の高さに迫るほど飛び出した自宅前のマンホール。修繕される前は一種の「名所」となって、近所の人が見学に来ていました

■ 幕張メッセで被災、予想外の液状化、直後から自宅は断水・・・

【3/11（金）】　幕張メッセにて被災。長い揺れにドラッグストアショーの会場は騒然。会場内は埃が降り白く煙っている。外に出ると歩道から水が溢れて、あちこち水浸しに。そのうち砂が舗装道路の間から湧きでるように現れ、それが水道管の破裂ではなく液状化だと気づく。海浜幕張の駅前は、水と砂があふれ出しているような状態。

バスで内陸の幕張本郷駅へ行き、そこから新浦安まで徒歩帰宅。近づくにつれ道路破損、液状化の被害がひどい。新浦安駅から自転車に乗り家に向かう。夜10時、歩き出してからちょうど5時間、我が家に到着。家の前のマンホールが2メートルくらい盛り上がっているのにびっくり。このあたりの被害が今まで見てきた中では一番ひどい。

マンホールは地震発生と同時に、盛り上がってきたのだという。我が家は断水。買い置きの2リットルの水が2ダースほど、お風呂の汲み置きがあったので、水に関してはなんとかなっている。電気、ガスが止まっていないのがありがたい。震災後、夫がコンビニに牛乳を買いに出かけたが、その時点で水は売り切れていたという。

■ 直後の週末、スーパーは大混雑、ガソリンは待てば買える ケーブルテレビで市長がコメント＆報告

【3/12（土）】　朝、スーパーに行ってみる。ワイズマートは入場制限。店の前には100人くらい並んでいる。オーケーストアもオープン。入場制限はしていないが、レジの前には数十人ずつが並び、ごった返している。各自の買い物量が多い。イトーヨーカドーは2か所の入り口に各200人くらいの人が並んで入場を待っている。

車で10分の南行徳は水がでるとのことで、家族で母の家に行く。南行徳のダイエーは、食品売り場を中心にあけている。ただ探している簡易ガスコンロのボンベやパン、バナナは売り切れ。ウエットティッシュ、洗いながさないクレンジング、チョコのコーンフレーク（シンプルなものは売り切れ）などを買う。

車のガソリンが切れそうなので、途中ＥＮＥＯＳで給油。数台列をなしていたが、スタッフがたくさんいて、きびきびと動き、温かく対応していて気持ちがいい。一人あたり20リットルまでの給油でハイオクしかなかったが、コスモではガソリンがなかったとのことで、とにかく給油ができてよかった。

夜10時、浦安市長がジェイコムでコメントし、給水の情報、あす災害用トイレができること、水道の復旧情報があす発表されることがわかる。道にあふれる泥は集めておくと必ず回収することも報告された。

■ 水、パン、インスタント系を中心に、売り切れ食品が目立つ 生鮮食品はたっぷりあるが、売れていない

【3/13（日）】　浦安ブライトンホテルの模擬結婚式体験の取材があるので、中止だろうなあと思いながら行ってみると、意外なことにやっていた。ホテルは何事もなかったかのように、いつもの優雅さを保っているが水の備蓄がいつまで続くかわからず、新しい予約は受けてないという。新浦安の駅前も液状化で泥に覆われ、壊れた舗装道路が広がり、まるでアジアの街角のように埃っぽい。

帰りに駅前のダイエーに寄ってみる。2階以上は営業休止、1階の食品フロアのみの営業。売り切れているのは、納豆、パン、カップめん、レトルトカレー、インスタントみそ汁、ガスボンベ、ドライシャンプー、ウエットティッシュ。水とパックのごはんは、次々と補充されては売れていくというような状況で、一人一点と制限されている。肉や魚、野菜はいつもどおりたっぷりとあるのにあまり売れていない様子で、できあがった惣菜ばかりが売れている。パンは出せばすぐ売れるという状況だそうだ。

午後、小学校の給水所にみんなで水をもらいに行った。タンクと、2リットルのペットボトル10本くらいに水をもらう。母から借りてきたお使い用のカートが役に立つ。電力の不足が問題となり、あす、14日はこの地区では朝6時20分から10時と、午後4時50分から8時30分に停電。ホテルや飲食店の経済的な被害も多くなるだろう。

■ 3連休・・・温泉施設の割引サービスにホッ

【3/19（土）】　今日から3連休。朝一時的に水が出るがすぐに止まり、断水は今日で8日目となる。毎日、タンクと2リットルのペットボトル10本くらいに水をもらいに行く。

お台場の「大江戸物語」が浦安市民は1000円のキャンペーンをやっているとのことで入りに行く。豊富な温かいお湯がありがたい。

うちの前の道路はだいぶきれいになってきた。飛び出たマンホールはほとんどひっこめられた。スーパーではまだまだ品不足が続いている。懐中電灯は見かけないがガスボンベは販売が開始された。パンもけっこう売っているが、食パンは一人1斤と制限しているところもある。

ガソリンの給油制限は続き長蛇の列が続いている。車での無駄な動きはできない。

■ ベイエリアのホテルは、元気に支援を続けている

【3/20（日）】　シェラトン、オークラなど、舞浜のホテル群で、入浴サービスをやっているところを視察に行く。あるホテルでは700円の定食と1200円のステーキ丼、シェラトンでは1000円のバイキングを、浦安市民を対象に提供している。昨日は一斉に人が押し寄せ、お昼までに一日の整理券配布が終わってしまったとのことだが、今日は少し待てば入れる状況だった。どのホテルもたくさんのスタッフが丁寧に迎えてくれて申し訳ないくらい。ホテルエリアの道路はあまり傷んでいないし周りも傷んでいるところがない。舞浜のホテル群は大きな打撃は受けておらず、営業はできる状態だという。

我が家の断水も10日。だんだん慣れてきた。食器にはラップを敷いて使う、鍋やフライパンはペーパータオルでふくとほとんどきれいになる、そのあと少ない水ですすぎ、アルコールで拭いておく。給水は朝7時ごろから、夜おそくまでやってくれ、いつでも取りに行けるという安心感があるので恵まれている。

■ ホテルの入浴サービスには長蛇の列 今後の消費の冷え込みの影が心配・・・

【3/21（月・祝）】　今日はディズニーランドホテル、サンルート東京、オリエンタルホテルも加わり、市内の7つのホテルで、入浴サービスを行っている。オリエンタルホテルに11時少し前に行ったが、すでに180人くらいの列。整理券をもらうために1時間ほど並び、16：30からの整理券を手に入れた。

そのあとダイエーのフードコートで食事。アトレも昨日から営業開始。ダイエーのファッションや家電売り場もやっていたが、まったくというほど人けがなく、消費が冷え込んでいることを感じる。食品売り場にはもうほとんど欠品はなく、パン売り場も山のように商品が並んでいる。品薄なのは納豆くらい。今は何よりガソリンが不足しているのが問題だ。

ホテルの入浴は部屋を75分使えるタイプのサービス。家族5人、順番にお風呂を使いながら、のんびりと時を過ごした。

この日、被災10日目にして、水が出た。断水を経験すると、いかに普段から水を無駄に使っているかに気付いた。トイレは声をかけあって行く、大のレバーは基本使わない、食器は紙で汚れを落とすなどは、これからも続けようと家族で話し合った。